

寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	島根半島四十二浦巡り再発見研究会
テーマ名	令和5年度寄附者設定テーマ事業
事業名	「島根半島四十二浦巡り結願の寺 一畑薬師への旅」製作事業
事業費(うち助成金額)	300,000 円
ネーミングライツ(該当があれば)	※NPO活動推進室記載箇所



■事業目的(250文字程度)

古来伝わる島根半島四十二浦巡りの結願の寺一畑薬師は1100年の歴史を持っていますが、全国に知られている目の薬師と四十二浦巡りとの合流が何故なのかは分かっていません。その一畑薬師は昭和50年1975頃には「一畑パーク」が開園されて大いに賑わったが、今ではテーマ音楽「一畑パークへ行こうかな・・・」も忘れ去られようとしています。しかし、島根半島中央部海拔200mの中腹にある一畑薬師は、平成22年2010に東京の古代史研究者関和彦氏が島根県立図書館で「一畑薬師への旅—四十二浦の浦々」の講演をされたことにより、民間信仰の四十二浦巡りが、一畑薬師と係わっていることが分かり、その歴史・文化を周辺の研究者の知見と関和彦先生の浦々の研究成果をまとめて、後世に伝えたいと考えました。

■事業内容(350字程度)

「一畑薬師への旅」をまとめるに当たり、編集委員会で話題になった「講」の存在と一畑薬師周辺の巨石信仰のことを掲載し、四十二浦の浦々の神社を巡る出雲国風土記を中心として「風土記学」の構築を目指していた故関和彦氏の研究を後世に伝えて、郷土史研究の端緒にして頂きたいと考えました。

このため、民間信仰で建ちあがった全国区としての一畑薬師が、江戸後期1820年に「八雲琴」創始者に歌われており、また今も写経・座禅等に訪ねる若い人が多いことに気が付きました。この傳承を未来に伝え、複合する信仰の拠点をもつメッカのように国際的信仰の旅の目的地として捉えて頂けるよう、関和彦氏の同僚で、東京で活躍するイギリス人の英語教師が訳された「歴史の足跡」を掲載することにしました。

■事業成果と今後の展望(450字程度)

表紙に一畑薬師の印象的絵画を裏表紙には「巡礼帖の表紙を飾った「龍と玉」の全体を掲載し、古代史研究者関和彦先生が宝の山とされていた古代史研究の端緒を見ることが出来るように前半を地元関係者・会員が見た一畑薬師の点景、風景を切り取って頂き、後半は四十二浦を巡り、それぞれの祭神の傳承を伝えて、象徴的写真と共に紹介しました。

この資料を出発点として、島根半島の発展・島根県全体の観光振興につながることを願います。

さらには、一畑薬師周辺は、島根県立自然公園にも指定されているので、一畑パークの賑わい、癒しの世界が再現出来る様に、バス停「一畑薬師」空き室の「四十二浦巡りビジターセンター一畑薬師」の設備を拡充し、関和彦先生が残された講演映像を紹介して、歴史研究の組み立て方を周知し、島根半島・宍道湖中海ジオパークの船で行かないと見ることが出来ない名所、ジオサイトの魅力を紹介し、広く島根半島の魅力を伝えたいと考えています。